

現状点検手法等について

| 規模 | 対象 | 点検時期 | 点検法 | モニタリング |
|--|---|---|----------------|-----------------------------|
| 港湾 港湾数 994か所 防波堤延長 524.7km 岸壁延長 886.5km | 外郭施設(防波堤、防潮堤、護岸、堤防など)、係留施設(岸壁、棧橋等)、荷捌き施設など | <ul style="list-style-type: none"> ・通常点検施設 5年以内に1回 ・重点点検施設 3年以内に1回 | 陸上或いは海上からの外観目視 | 特に無し |
| 港湾 指針・マニュアル等 | 港湾の施設の維持管理計画策定ガイドライン(H27.4 国交省) 港湾の施設の維持管理計画書作成の手引き(H19.10 港湾空港建設技術サービスセンター) 港湾の施設の維持管理技術マニュアル(H19.10 沿岸技術研究センター) | | | モニタリングに関する指針やマニュアルなし |
| 河川 一級水系 109 一級河川 13,989km 堤防延長 13,390km 点検対象 9,155km | 堤防(天端、法面、堤防護岸など) | <ul style="list-style-type: none"> ・年2回(出水期前、台風期)が基本。 ・出水があった場合には、その出水後に点検を実施 | 目視点検 | 特に無し |
| 河川 指針・マニュアル等 | 堤防等河川管理施設及び河道の点検要領(H24.5 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課) | | | モニタリングに関する指針やマニュアルなし |

点検に関する指針、要領は整備されているものの、モニタリングについてはそれらが整備されていない状況

【実証区間】円山川右岸 13.0k~14.0k

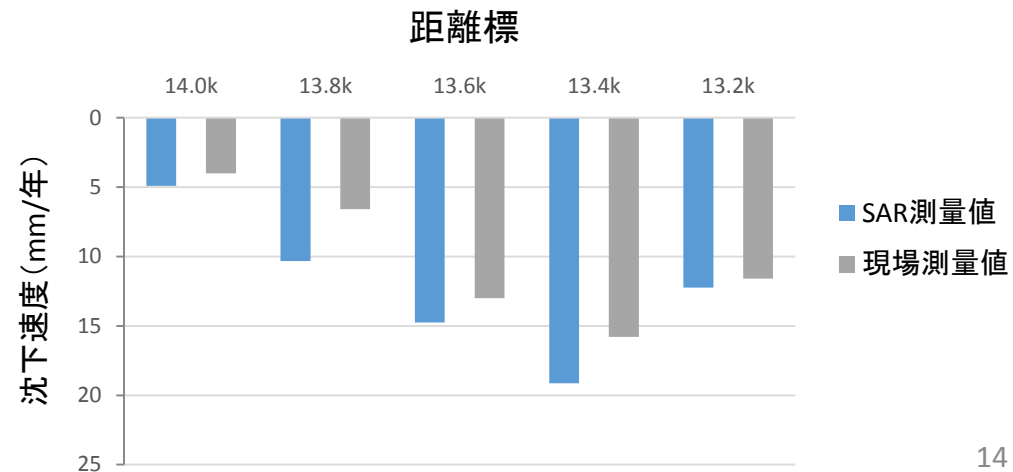


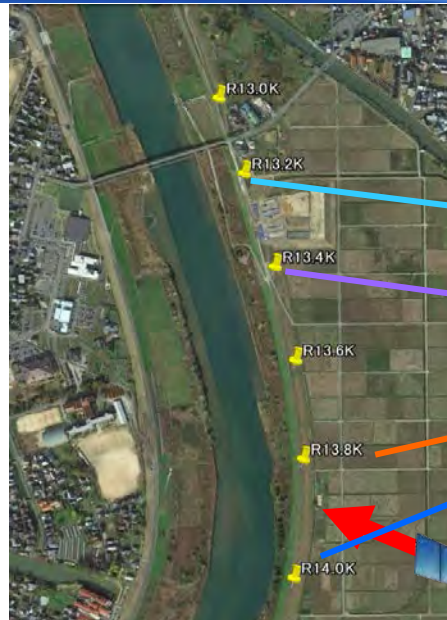
- H17、H22年度の定期横断測量成果と解析結果との比較
- ALOS運用期間(H18~H23年)内の15シーンを使用

《特徴・選定理由》

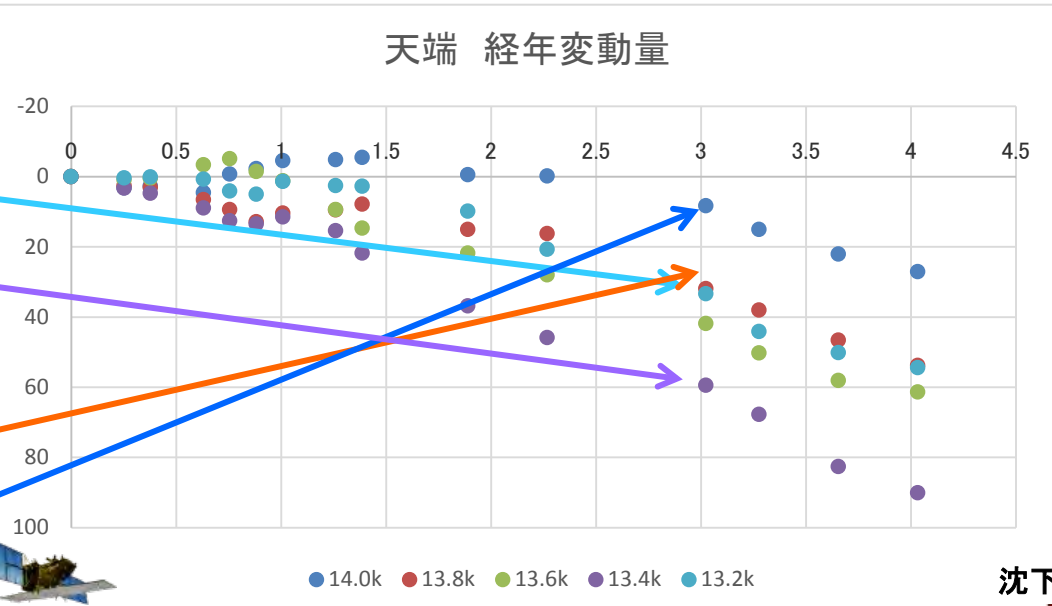
- ◆ 平成16年の台風23号時の破堤箇所（築堤後の変状監視データがある区間）
- ◆ 近年、築堤工事が完了し、圧密沈下に伴う変状の可能性が高い箇所

実測データとSAR解析結果との沈下速度比較 (mm/year)





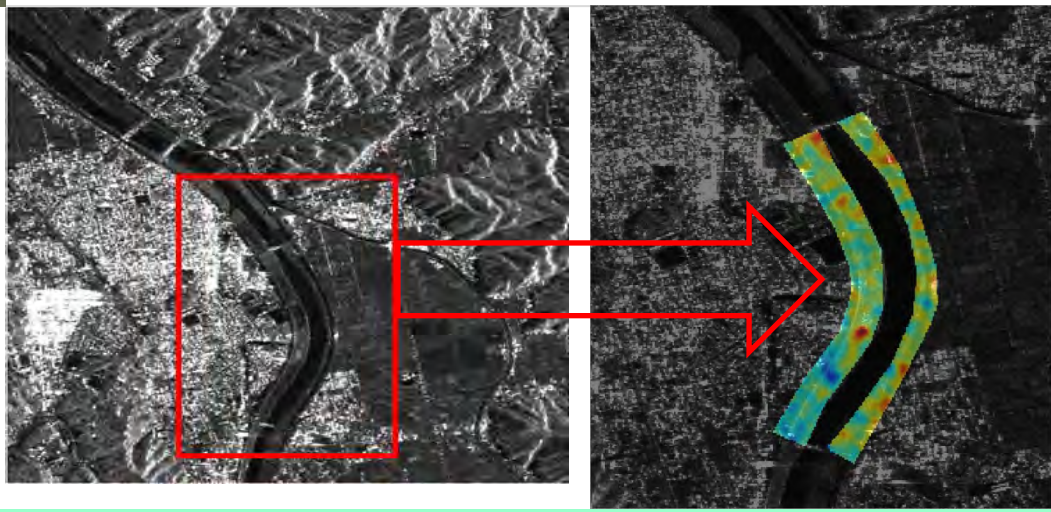
↑ 電波照射方向
(=衛星による変動量測定方向)



- ◆ 目視による定期点検では沈下の把握は困難
- ◆ 横断測量5年以内に1回を補完する
- ◆ 200mピッチの測点数を補完し、面的に把握可能



沈下傾向の大きい箇所
が判別可能となり管理者
の補修計画など意思決
定を支援



干渉SAR解析手法により水準測量の測点を補完し面的に全体把握可能なことで、従来調査手法の概念から質的変化をもたらす